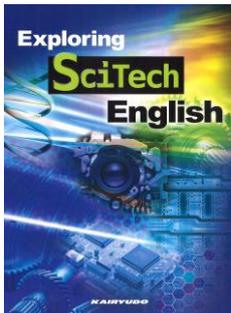


研究タイトル: **CLIL と CLT**

氏名:	吉村理英 / YOSHIMURA Rie	E-mail:	yoshimura@oyama-ct. ac. jp
職名:	准教授	学位:	教育学 (修士)
所属学会・協会:	全国英語教育学会, 外国語教育メディア学会, IATEFL		
キーワード:	TESOL/CELTA, Interaction, Cooperative Learning, Reflective practice		
技術相談 提供可能技術:	<ul style="list-style-type: none"> ・海外留学に関する相談 ・TOEIC や IELTS, 英検などの相談 ・英語でのプレゼンテーションやスピーチについて 		

研究内容: **CLIL と CLT**

- ① CLT (Communicative Language Teaching) (日本の EFL における指導法と評価について)
コミュニケーション能力の養成を中心目標にした教授法。学習者に言語をコミュニケーションの手段として使用できるように訓練させることを目的とし、コミュニケーション活動を中心にして言語を学習させる教授法である。グループワークおよびペアワークを用いるなどのテクニックがよく使われる。コミュニケーションを養成するすべての要素が関係するので、とても奥深い。この教授法を日本の外国語の授業で ICT を用いて効果的に行うための研究。
- ② CLIL (Content and Language Integrated Learning)
教科内容の学習と外国語学習を同時に行う教育手法。たとえば理科や歴史などを英語で学ぶことで、学習者はその教科知識を深めながら、自然に外国語の理解や運用力を高める。単なる言語学習ではなく、「言語を学ぶ」から「言語を使って学ぶ」へと視点を広げることが特徴である。また、CLIL では思考力や異文化理解を育むことも重視されており、知識・言語・思考・文化の 4 つの要素をバランスよく伸ばすことを目指す教授法の一つである。
- ③ 外国語の授業における協同学習の効果について
ペアやグループで授業をすることが協同学習であるとは必ずしも言えない。互いに学び合う際、どのように人々が影響し合うのか。協同学習の成立要件や、ペアの特徴、グループダイナミクス、教室内でのコミュニケーション構造についての研究。
- ④ 英語の教科書や、授業で使用する副教材などの教材開発



researchmap: <https://researchmap.jp/terunuma>
研究紀要: -

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	